

学科名	電気通信工学科						
科目名	電気回路 I 演習						
科目区分	専門科目	単位数	2単位	開講時期	1年次後期		
必修・選択の別	必修(組込みシステムコース)/必修(電気エネルギーコース)/必修(情報システムコース)						
担当者	原谷 直実						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・キルヒホッフの法則とオームの法則を電流平衡式・電圧平衡式に正しく適用し、回路各部の電流・電圧を求めることができる。(A6,A7) ・重ねの理や回路方程式を用いて、多電源直流回路の解析ができる。(A7) ・等価電圧源や等価電流源を求めることができる。(A7) ・電源の供給電力と抵抗素子の消費電力、回路の消費電力を理解し、計算することができる。(A7) 						
日程と内容	<p>第1回：09/15：導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法等、授業に関する重要情報 (第1ピリオド演習) 電気回路と電気基礎量、電源、キルヒホッフの法則、オームの法則と回路方程式、抵抗値とコンダクタンス、直列接続と並列接続、合成抵抗など、演習問題と解説</p> <p>第2回：09/26：(第1ピリオド試験) 第1ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、問題解説</p> <p>第3回：09/29：(第1ピリオド試験) 第1ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、問題解説</p> <p>第4回：10/06：(第1ピリオド試験) 第1ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、問題解説</p> <p>第5回：10/13：(第1ピリオド試験) 第1ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、問題解説</p> <p>第6回：10/20：(第2ピリオド演習) 回路方程式、電力、演習問題の解説</p> <p>第7回：10/27：(第2ピリオド試験) 第2ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、問題解説</p> <p>第8回：11/10：(第2ピリオド試験) 第2ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、第1ピリオド追試験</p> <p>第9回：11/17：(第2ピリオド試験) 第2ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、第1ピリオド追試験</p> <p>第10回：11/24：(第2ピリオド試験) 第2ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、第1ピリオド追試験</p> <p>第11回：12/01：(第3ピリオド演習) 多電源回路と回路方程式、重ねの理、テブナンの定理、ノートンの定理、等価電源、電源の変換、最大電力、演習問題の解説</p> <p>第12回：12/22：(第3ピリオド試験) 第3ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、問題解説</p> <p>第13回：01/12：(第3ピリオド試験) 第3ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、第2ピリオド追試験</p> <p>第14回：01/26：(第3ピリオド試験) 第3ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、第2ピリオド追試験</p> <p>第15回：02/03：(第3ピリオド試験) 第3ピリオドの演習問題と類似の問題を出題、第2ピリオド追試験</p>						
成績評価基準	定期試験 臨時試験 報告書・レポート 課題 演習	100%	実技 部外評価 プレゼンテーション	計	100%		
授業到達目標の達成度	実施した「ピリオド試験」12回をすべて受験したにもかかわらず不合格になった学生が11名いた。昨年度は3名だけだった。中には30点台-40点台の学生もあり、到達度について十分とは言えないように感じる。						
反省点	合格率の遷移は、73%(2011年度)→80%(2012年度)→81%(2013年度)→95%(2014年度)→69%(2015年度)であり、今年度は急激に悪化した。再履修での奮起を望む。						
来年度の計画	上記不合格者を含め、来年度の再履修者は24名である。今年度の再履修科目(10名履修、9名合格)と同様の内容で行う予定である。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価の遷移を見てみると、6.9(2007年度)→7.5(2008年度)→7.9(2009年度)→7.7(2010年度)→8.2(2011年度)→8.6(2012年度)→7.6(2013年度)→7.8(2014年度)→7.8(2015年度)となっている。毎週の試験を苦痛と感じているのかもしれない。一方で、毎回の成績を非常に気にして、合格しようとする意欲や成績を良くしようとする向上心をもった学生が多くいることも事実である。						
履修登録者数	65名	定期試験 受験者数	61名	合格者数	42名	合格率	69%